



浜っ子

発行 カトリック浜寺教会
高石市羽衣 2-2-27
TEL 072-261-1563
FAX 072-261-1594

2023年11月号 (2023.10.29 発行)

11月19日～26日 聖書週間

秋をたっぷり感じています。急な寒さに油断することなく、体調に気をつけてお過ごしくださいませ。聖堂に入る前の、外での手洗いと消毒、換気は継続します。マスクは強制ではありませんが、個々の環境や健康状態で着用をお考え下さい。 **感染対策へのご協力 いつもありがとうございます。**

1963年の秋を思い起こす

聖ザベリオ宣教会 ピエル・ジョルジョ・マンニ神父

日本のすべての学校や会社は、次の年に東京で開催される予定のオリンピックの準備中でした。子どもや青年のみならず、高齢者までも日本の成長ぶりや美しい文化を世界にしめそうとしていました。イタリアのローマ。聖ペトロ大聖堂で世界の全司教が集い、聖霊を祈りつつ、カトリック教会の刷新を図るための第二バチカン公会議の開催中でした。その中で、アフリカ諸国の司教たちの熱意と活躍は見事なものでした。彼らをリードするルガンブア司教は最初の黒人枢機卿になったばかりでした。

その年の10月13日に、パルマ市のザベリオ宣教会の若い宣教師29人は司祭に叙階され、司式者としてルガンブア枢機卿がローマから駆けつけてくださいました。よろこび、祈りと信仰を味わえた素晴らしい集いでした。ルガンブア枢機卿の背の高さと美しいふるまい、そして若い宣教師に向けてくださった優しい話とはとても印象的でした。

その年のクリスマスに、ザベリオ宣教会の総長から、新神父二人デボーティとマンニに、日本への派遣の通知が届きました。とてもうれしいクリスマスプレゼントでした。今年は60周年に当たります。

若い時に出会った宣教師たちは素敵な姿だったので、私たちも宣教師になろうと思いました。その後、宣教地で彼らの本当のすごさを知りました。福音を伝えるために、どの道を歩いても、だれに会っても、よきサマリア人となっていました。神様にすべてを奉げていたので、勇気と喜びをもってイエスの真の弟子となっていました。

あの10月13日から60年が経ち、私たちのできる仕事は徐々に少なくなってきましたので、お聖堂で静かに祈る時間が多くなっています。そのような時、神様を賛美する多くの人が集まり生き生きとした垣根を作り、まるで冠のようにも見える花壇の真ん中において、たくさんの大人と子どもたちに囲まれているような思いがします。季節ごとに美しい花が絶えることなく見事に咲き続け、さまざまな形や色、新しい香りと希望の歌を奏でながら、神様から注がれている美しいのちを表しています。それらの花たちは、私たちが大切に世話をしてきたものです。

宣教師の仕事は土地を耕して、種をまくものと思われませんが、私の体験は少し違うようです。神様ご自身がすべての人の心の中に住んで、その人に種(ことば)をやさしくまきつけておられます。宣教師の役割は、神様の働きに気付かせることです。神様の声に耳と心を開くと、自然に神様の思いを知り、言葉の通りに「神様の子」となります。



しさいじょかい しゅうねん むか
司祭叙階60周年を迎えて

1940年11月9日生まれのピエル・ジョルジョ・マンニ神父は、1963年10月13日の司祭叙階後、日本派遣の任命を受け、1964年9月に来日した。大阪教区の数多くの教会で宣教司牧をするとともに、教育分野ではカトリック大学で教鞭を執り、とりわけ幼児教育の分野では多くの幼稚園の園長として全力を尽くし、カトリック幼稚園連盟の理事も長年務めた。また、聖ザベリオ宣教会の管区長として数期を務めた。現在も、岸和田地区のカトリック共同体の司牧を援助しながら、聖ザベリオ会の本部で、祈りのうちに過ごしている。この特別な記念日にあたり、心より感謝と祝福を捧げます。

「聖ザビエルの友」会報誌11月号より

<<ご結婚おめでとうございます 10月22日>>

Y.N.さん ♥ Y.A.さん

とても優しくそうな新郎 Yさんにお人形さんの様に綺麗な新婦 A子さん。

村田神父様の司式で挙行された結婚式は、秋の晴天にも恵まれ、親族の皆さん、そして信徒の皆さんでお二人の素晴らしい門出をお祝いました。

『わたしがあなたたちを愛したように、

互いに愛し合いなさい。』(ヨハネ 15章)

また結婚式の最後には神父様が、「フランシスコの平和の祈り」をお二人に送られました。

結婚の祝福をいただいたお二人が、

これからも愛に生き、幸せなご家庭を築かれますことを心からお祈りいたします。



『フランシスコの平和の祈り』

主よ、わたしを平和の器とならせてください。
憎しみがあるところに愛を、
争いがあるところに赦しを、
分裂があるところに一致を、
疑いのあるところに信仰を、
誤りがあるところに真理を、
絶望があるところに希望を、
闇あるところに光を、
悲しみあるところに喜びを。

ああ、主よ、慰められるよりも慰める者としてください。

理解されるよりも理解する者に、

愛されるよりも愛する者に。

それは、わたしたちが、自ら与えることによって受け、

許すことによって赦され、

自分のからだをささげて死ぬことによって

とこしえの命を得ることができるからです。



<<「やさしい日本語」セミナーに参加して>>

国際協力委員会 I.I.

先日、「やさしい日本語」の認定講師でその普及活動をされている、親友の奥様からの招きを受けて入門セミナーに参加しました。

「やさしい日本語」とは、難しい言葉をやさしく言い換えて、相手にわかりやすく配慮した日本語のことで、日本語を母国語としない方や高齢者、障害のある方など、さまざまな方に用いられます。

相手が受け取りやすい情報の伝え方をすることによって、相手からも必要な情報をより一層得やすくなります。そして、外国の方だけではなく日本人であっても、特に高齢の方々や障害のある方との会話において、一層相手の理解が深まり、誤解や不安が解消されるといった利点があります。

セミナー当日は、会場及びインターネットあわせて59名の参加があり、自己紹介のあと「やさしい日本語」についての説明や、例文をやさしく置き換える練習とその講評、さらに使用すると有効なシーンについての考察などが行われました。

「やさしい日本語」を話すポイントとして、具体的には次の10点があげられます。

① 話し出す前に整理する

これからの話の全体像をまず相手に伝えて、相手が理解しやすくなるようにする。

② 一文を短くし、語尾を明瞭にして文章を区切ります

「明日は豪雨が予報されており、計画運休を実施します」

⇨「明日は雨がひどいです。電車が止まります」

③ 尊敬語・謙譲語を使わずに丁寧語を用いる

「ご記入ください」⇨「書いてください」

④ 単語の頭に「お」「ご」をつけない(可能な範囲で)

「ご挨拶」「お会計」⇨「挨拶」「会計」

⑤ 漢語よりも和語を使う

「過食や運動不足は肥満の原因になります」⇨「食べ過ぎて動かないと太ります」

⑥ カタカナ語や外来語を多用しない

「ウェブのスキルアップのためのワーケーションのコンセンサスがアウトだった」

⇨「いろんな情報を上手くとれるようになりたいのだけど、休みの間に取り組む話はダメだった」

⑦ 言葉を言い換えて選択肢を増やす

「交代します」⇨「代わります」

「往復」⇨「行き帰り」

⑧ ジェスチャーを交えて実物を示す

「体温計を腋の下に挟んでください」

⇨「これ(体温計をみせて)をここ(腋の下をさして)へ入れてください」

⑨ オノマトペ(擬態語・擬声語)は使わない

「ガンガン」「チクチク」「きらきら」「ひらひら」などの、理解しにくい繰り返し表現は用いない

⑩ 相手の日本語能力が高い場合は、「やさしい日本語」を止める

見方を変えると、これらの表現は、いわば「子ども言葉」で話すことを教えているようです。

「小さな子どものような心で」と話されたイエスさまの言葉が重なります。

外国語の習得よりはるかに近道ともいえる「やさしい日本語」の活用は、国際協力のスピードアップや、認知症の増加が危惧される高齢化社会への対応策として、また人間の様々な多様性に視点が向けられている現代社会における一つの道具として、今後注目されていきそうです。

<<お知らせ>>

○死者追悼ミサ…11月3日(金・祝) 9時30分～ ミサ後 納骨堂登録者総会

○七五三の祈り…11月12日(日) ごミサの中で、一緒にお祈りし、祝福をいただきます。

洗礼の有無にかかわらず、どなたでもご参加いただけます。

千歳あめも用意しています。



